

ひょうご農地・水ニュース

監修：兵庫県農地整備課

発行：兵庫県地域協議会

水土里ネット兵庫 078-341-0500



平成20年度 ひょうご水土里のふるさとフォーラムが開催されました。 (兵庫県公館：11月30日)

1 開催趣旨

先人が築き守ってきた“ひょうごの水・土・里”は、農を支え、文化を育み、多様な生き物の棲みかを提供してきました。この素晴らしい環境は、県民とともに、活かし、次世代に引き継がなければいけない財産です。

このフォーラムでは、水・土・里の役割と多くの県民の参画を得た協働の活動について広く情報配信することで、県下のふるさとづくりをさらに推進することが目的です。

本年度を第1回目とし、来年度以降も開催する予定です。

2 テーマ

「農を支える水と緑を守る」

～次世代につなぐふるさとづくりと循環する水のネットワーク再発見～

3 内容等の紹介

第1部「次世代につなぐふるさとづくり」(12:30~13:40)

- オープニングセレモニー メダカのコタロー劇団による
「地域で農地・水・環境を守ろう！」 「親子で自然環境を身近に考えよう！」
をテーマにしたアニメ紙芝居です。
- ・ 声優のたまごたちによるプロジェクター（映像）を使った紙芝居仕立ての演出で、川
の中の様子をメダカたちなどの視点で見た農村の環境悪化に対し、地域の人々が農地・
水・環境保全活動に取組むことで、除々にではあるが昔のような良い環境にもどってきた
という物語です。



○農地・水・環境保全向上対策の優良な取組みをされた地区の表彰として「みどり豊かなふるさと大賞」を授与されました。受賞地区は以下の5地区です。

知事賞（井戸知事）：①上久下東農地・水・環境保全向上活動の会（丹波市）

②浅間区環境推進協議会・（養父市）

委員長賞（三野委員長）：③鮎原下農地水環境保全隊（洲本市）

④余田花の日の里・・・・（福崎町）

⑤真南条上環境保全向上活動委員会・・・・（篠山市）

受賞の活動組織代表者の方々



平成20年度 ひょうご水土里のふるさとフォーラム

② トークショーは【次世代につなぐみどり豊かなふるさとづくり】をテーマに以下の5名で討論されました。

1. 谷 五郎（たにごろう）（タレント）：司会者
2. 三野 徹（みつのとおる）兵庫県農地・水・環境保全向上対策推進委員会委員長
3. 吉竹 寛二（よしたけかんじ）丹波市 上久下東地区会長
4. 西田 健次（にしだけんじ）養父市 浅間地区コウノトリ部会代表
5. 木田 一也（きだかずや）洲本市 鮎原下地区代表

三野：農地・水・環境保全向上対策事業の趣旨を説明されました。

今の農村部は少子・高齢化となり、村自体の存在が危ないところもあります。

昔の人が築いた田んぼや水路、ため池は荒れはてて、水がうまく流れないとあります。特に近畿や四国、中国地方が深刻なようです。

この問題を解決するための具体的な方法として地元の農業者以外にも農村づくりに参加してもらう取組が必要である、それを支援をするのが「農地・水・環境保全向上対策」事業です。

この活動が一過性にとどまらず、長く取り組むことが大切です。

また、小学生の生き物調査も大切な活動であり、生き物の生息が確認されることは安全、安心にもつながる、来年度からは、農林水産省も生き物認証制度に力を入れて取り組むはずです。

吉竹：田んぼに恐竜の絵を描いた方法を説明されました。

10アールの田に恐竜を描いて、恐竜本体はピンク色の穂がかかる品種、輪郭は黒い穂の品種、丹波竜という文字は赤い穂の品種を使用、いずれも古代米です。残りは普通のもち米を植えました。

田植えなどの参加者は、商工会や観光協会などの呼びかけで「丹恐竜夢見隊」を結成し、遊休農地を利活用して制作しました。

また、この事業では井堰の取水ゲート、水管橋の補修（従来は土地改良が負担）や道路、水路の草刈りにも日当を支払うことができ喜ばれました。

最後に一言：「美しい農村風景や環境を守っていきたい」

討論会の様子



西田：環境にやさしい米づくりの取組について説明されました。

農協の人から「一袋千円高く売れるから」と勧められたのが最初で、紙マルチの紙は30日～40日で溶けて有機肥料になります、また、オタマジャクシに足が生えるまでは水を干さないし、農薬も全く使わないので、紙マルチの方が生き物がたくさんいます。

最初のうちは雑草や病気に苦労し、収量も思うに任せませんでしたが16年やってきて、ようやく普通のコシヒカリに負けないようになりました。

毎年行う農作業実習は小学生に参加してもらい、50年後の農業を見据えた取組を行っており、米作りに参加した小学生からの手紙には「将来農業をやってみたい」と書かれており将来にも希望が出てきました。

最後に一言：「コウノトリにも帰ってきてほしい」

木田：ホームページで「農地・水・・」の取組状況を紹介しました。

開設が早かったおかげで、今年7月までに約5万4千件のアクセスがありました。また、生き物調査にも子供会を初め父兄の方々も数多く参加していただきました。農作業などの活動に参加していただいた方々には1年間の作業費として報酬を払っておりますが、その支払いについては一人一人に取りに来ていただき、直接手渡す方法を取りており、その場での会話が参加者との人間関係を深めました。

最後に一言：「幅広い年齢層にコミュニケーションを図ってほしい」